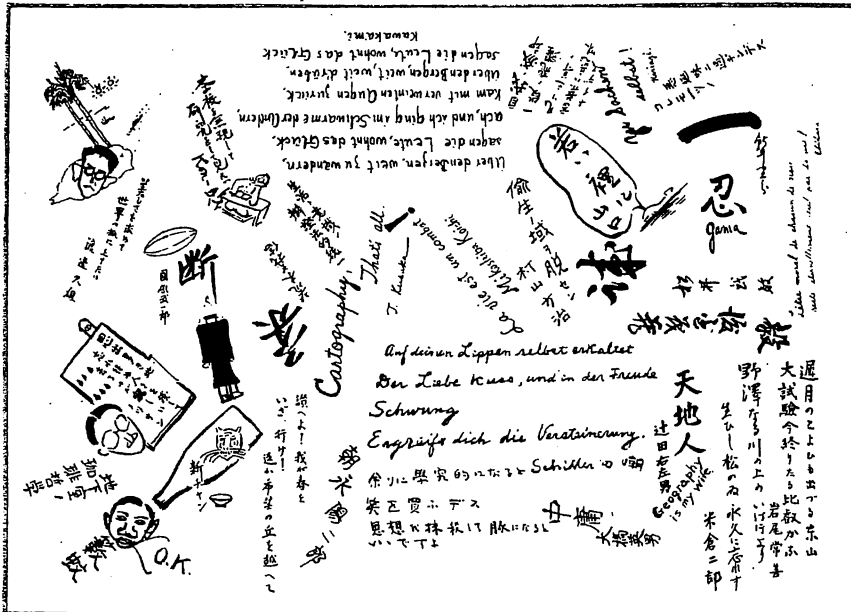


# 京都大学地理学談話会

## 会 報

第19号



2008

## [目次]

### 寄稿

“不肖の弟子”の記.....	氷見 方治 (1955年卒)	1
地域で町史をつくる.....	大槻 守 (1957年卒)	2
大学卒業後の私.....	山田 照子 (1964年卒)	4

### 秋季地理学談話会の報告～地理学教室百周年記念大会～

.....		8
〈第1部〉 O B交流会		
〈第2部〉 講演会		
日本古代の天皇をめぐる歴史地理学的視点	千田 稔 (1966年卒)	
〈第3部〉 懇親会と座談会		

### 研究室便り

〈金田章裕教授の退職について〉 .....	10
〈上杉和央助教の転出について〉 .....	11
〈総合博物館における地図資料等の利用について〉.....	11
〈博士の学位について〉.....	11
〈夏期大学院入試の実施について〉 .....	12
〈外国人研究者～滞在された方～〉.....	12
〈地理学教室への寄贈図書～2007年度～〉.....	12
〈研究室の動静〉 .....	16
〈3回生と新研究生の自己紹介〉	
〈2007年度の実習旅行〉	
〈学部卒業生・院生の進路〉	
〈院生の研究状況の報告〉	
〈2008年度講義題目〉	

### 事務局から

〈地理学談話会2007年度会計報告〉 .....	18
〈計報〉.....	19
〈住所不明者についてお願い〉 .....	19
〈オープンキャンパス：2007年度の報告と2008年度のお知らせ〉 .....	20
〈2008年度地理学談話会 O B交流会・講演会・懇親会のお知らせ〉.....	20
〈『地理学教室百周年史』刊行のご案内〉.....	21

※表紙イラスト： 昭和9年前後の寄せ書き ～教室所蔵の「地理学談話会」アルバムより～

## 寄稿

### “不肖の弟子”の記

氷見 方治(1955年卒)

昭和27年4月、陳列館にあった人文地理学教室に新たに集った者は、山澄 元、藤村重美、藤森 勉、島田正彦、氷見方治(いろは順)の5名でした。藤村氏は、西京高校時代から西村先生に私淑していて、彼の隣家に下宿した私に人文地理学の興味深さを刷り込み、教養部時代には連れだって藤岡先生の研究室に押しかけるなどしたものでした。

当時の人文地理学教室には、末尾さんをはじめとして、学の内外に優秀な先輩が在籍され、私など、口ばかり達者でも、内心ではおじけづいていたのが実のところでした。

小さな世帯なればこそそのなごやかな雰囲気の中で、初めは私なりに足並みを合わせてきたつもりでしたが、研究レポート作成のための資料蒐集に京都府庁を訪ねるに当たり、郷土の中学の先輩である井上清一元副知事を頼ったことから、その縁で氏の28年の参議院議員通常選挙の出馬準備に携わることになり、その当選後は、あれよあれよと戸惑う間もあらばこそ、秘書業務の一部を担うという予想もせぬ事態に当面して、教室の方はまだら出席から次第に間遠になっていきました。

そんなことで、織田先生の泰然として飄逸に見えながら、ツボを押さえた講義に接する機会を自ら放棄することが多く、いろんな逸話を耳にする研究旅行にも、参加することはかないませんでした。

ただ一回の経験は、27年の秋でしたか、醍醐の山を東に越えたところの笠取村(現宇治市)が、最近になって電気が通じたから古い資料が残っているのではないかと、一泊がかりで実習調査に入りました。今では信じられないような話ですが、たしか木幡の方から入って目的の旧家に泊めていただき、翌日の夕刻、横峰峠を越えて醍醐寺に下りたのですが、そのとき、峠の岩に腰をおろして夕陽を見ておられた織田先生の姿は、醍醐に住まいしている私にとって、今も忘れることのない記憶の中の風景です。

28年の晩夏、台風禍で淀川水系が氾濫し、被災地の見舞に、井上議員に随行して車を走らせていたときのことでした。向島から南に巨椋池が復原し、奈良電(当時)の線路は水没、ただ一本、セメント舗装の国道(24号)を、手に上着を提げて歩いている中年の男性が二人。近づけば藤岡先生で、この出会いは先生の随筆書の中にも点描されています。そのときの車中での議員との会話で、私を評して“不肖の弟子”と表現されたのは、まさに至言ではありました。

ともかくも、昭和30年には、卒業証書付きで送り出され、その後の人生は議員秘書12年、41年2月の井上京都市長誕生に従って市役所入り。それが在任11か

月余にして殉職急逝という不測の事態に逢い、運命は一転して逆風の中に身を置くことになったものの、定年までの公務員生活を過ごしました。

43年、統計解析センター在籍時に、京都市都市圏調査に手を染めたことから、藤岡先生に接する機会が復活、まだ独身だった私に縁談を奨められたことがあり、“不肖の弟子”を気づかしてくださることがうれしく、感激したものでした。ところがそんな話は山澄氏の耳にみんな筒抜け、それが人文地理学教室の家族的雰囲気というのでしょうか。

昭和50年代の後半から60年代初めにかけて京都市が基本構想並びに基本計画の策定に着手し、その担当者の一人に起用されたのは、人文地理学徒であったことが一因だったのでしょいか。陽の当たる場所で仕事をさせてもらいましたが、各方面からお知恵を拝借する中で各大学の多様な先生方と接する機会も多く、そんな時に、藤岡先生とお会いすることがありました。不肖の弟子の仕事の成果を、最後まで見届けていただけなかったのが、不肖の弟子にとっては心残りでした。

教室の方はサッパリご無沙汰の私ではありますが、同期生から声がかかったときは、時間を作って出かけたものです。掲載写真は昭和30年代の半ばごろでしょうか。湖西線が通じて間もなくの時、山澄氏（右から3人目）の提唱で、30年、31年卒の同窓会を加賀温泉郷で行ったときのものでした。服部氏（左から3人目）が、「2万5千分の1地形図を見たら、等高

線から山容が浮かんでくる。」と言いきり、注目を集めたことを覚えています。



私（写真右端）は、齢五十を超えてから山歩きを始め、昨年は喜寿の記念に北岳と奥穂高岳に登頂しました。もちろん地図は必携ですが、概ねの地形を把握できる程度で、不勉強の酬いが今も続いているようです。

市役所をリアアした後は、“財団法人全日本なぎなた連盟”なる武道団体にかかわったことから、地方都市へ出かけては地図を手に街歩きをしています。ただ、風物を見るだけで学術的発想に結びつかないのは、それが本性なのだと思うことにしています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 地域で町史をつくる

香寺町史編集室

大槻 守(1957年卒)

卒業して半世紀が過ぎた。茫々たるかなである。昨年12月、地理学教室百周

年記念大会ということで、地理学談話会に出席した。教室100年の歩みの丁度中間点に在籍していたことを思いながら、久しぶりに思い出を語り合い、織田先生の在りし日のお姿を皆様とともに偲ぶことができた。既に藤岡、西村両先生とも鬼籍に入られている。まことに寂しいかぎりである。

3先生からはお前はいったい何をしていると言われそうである。浮田さんが教職に終止符を打たれたとき、平均寿命まであとわずか6年だが、したいことや、すべきことがいっぱいある、と言われていたのを思い出す。そして、それを最後まで成し遂げられた。さいわい、私も私なりの仕事を続けさせてもらっている。というより、あと2年は止めるわけにいかないと言うのが実情ではあるのだが。

私は、西村先生の『傘寿記念随想集』(1995)で「定年退職の日まであと60日である」と書いている。そして、退職後は教育界に残るという「大義名分派」の一人になりそうだと報告した。ところが、その私学での仕事は3年で身を引き、縁あって地元で町史編纂に携わることになった。そのしばらく後、藤森さんの世話で1955年卒業前後の拡大同窓会が開かれ、織田、西村両先生をお招きし歓を尽くしたことがあった。その席で町史編纂のことをお話しすると喜んで聞いてくださった。あれからもう8年になる。

町史は執筆ではなくて編集室を主宰している。編集委員長には、大学の教養での同級のおよしみで大山喬平氏を口説き落

として引き受けてもらっているのが心強い。いつになっても人脈は大事なものだ。ところで、町史は地域編と通史編各2巻の構想で、3年前にそのうち地域編2巻を刊行した。その書名が型破りだが『香寺町史 村の記憶』とつけている。香寺町史の特色はこの地域編ともう一つは住民参加という編集方針にある。

兵庫県でも自治体史はほとんどの市町村で編纂されてきた。兵庫県立図書館の2002年調査では未刊の自治体は僅かに8カ町で、香寺町もその一つであった。県史をはじめとしてたいていの市町が大部な史(資)料編をつけ、通史編や民俗編、文化財編などで構成している。が、地理編はあってもまず地域編はない。手元の自治体史では『大津市史』が全10巻のうち3巻を地域編(1984～86)に当てているのが目を引く。ほぼ小学校区ごとに地域区分し、各地区とも歴史、文献、民俗(祭礼・行事、伝承)、考古・美術、略年表で構成している。現在刊行中の『和泉市史』(2005～)は、市域内を5地域に区分し、「地域の生活構築の歴史を・・・総体的に明らかにする」という方針の下に意欲的な地域叙述編を中心に編纂しつつある。書名と構成から関心を持ったのは、茨城県の『村史 千代川村生活史』(1997～)である。生活史を自治体史に冠しているのも珍しいが、第2巻が地誌である。藩政村ごとに、研究者が村に入って景観、沿革、生業、村の組織・施設、信仰などを調査し、ほぼ統一的な項目で記述してある。

ところで、香寺町が地域編を発想したのは、町史を住民自身の手で書けないかと思ったからである。生活革命と呼ばれるほどの変化を体験し、村の消滅という事態にまさに立ち会ってきた人たちが目の前にいる。この人たちなら書けるし、また、書いておかなければ次の世代に伝わらないではないかという思いからであった。実は、こうした住民の生活記録を市史づくりにつなげようとした市があった。士別市の『士別市史抄 私たちの歩み』（1989）である。市民に自分史の提供を呼びかけ、集まった138編を年代順に配列して市民史と名づけ、世界・日本・士別の項目と並べて編集した年表である。

では、香寺町の住民が書く地域編編纂とはどのようなものであったか。

第1は集落を叙述の対象としたことである。集落は生活空間の基礎地域であり、日常的には「ムラ（村）」とか「部落」とか呼ばれてきた。この生活の地域集団であるムラで展開されてきた共同体的な諸活動を叙述することがふるさとの歴史を書くことになるのではないかと考えたからである。水津さんの「基礎地域」論を久しぶりに読み返していた。

第2は地域住民が叙述の主体となったことである。各集落から出た町史編集協力者は130余人にのぼり、ほぼ定年後の60代、70代であった。それぞれが自己の体験をムラの動きと重ねながら書くことによって、地域の変貌をしだいに明らかにしていった。書名を『村の記憶』

とした由縁である。

第3は町史編纂の過程を大事にしたことである。素人集団が何を、どう書くか、を手探りしながら進めたことから、それぞれがムラの姿を見直すことになった。これがその後の村づくりに生かされようとしている。また、どんな史料があつて、どう使うのかから、史料を地域で保存・活用することにも関心が高まってきた。

編集者として苦勞のしがいのある楽しい仕事であつたし、住民がつくった町史ということで注目もされ、研究会などで2、3報告の機会を与えられたが、最もうれしかったのはやはり町民からきそつて買ってもらったことにつきる。

現在は続編としての通史編編纂を続けている。2年前、平成の大合併という大波に呑み込まれ、存続が危ぶまれたが、ともかく事業委託という前代未聞(?)の方式で残ることになった。それがあと2年間の猶予期間というわけである。ともあれ、また、新しい経験をさせてもらっている。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 大学卒業後の私

山田 照子(1964年卒)

### (1) 織田武雄先生のこと

私は大学入学後滋賀県立膳所高校卒業の同級生たちと共に地理同好会に入りましたので、学部時代は、藤岡謙二郎先生

のご指導を受けお世話になったことが多かったように思います。しかし、卒業後は織田先生にお世話になり、お会いすることが多くなりました。

10年近く前のことだったと思います。織田先生からお電話をいただきました。

「今、八瀬遊園のシルバーマンションにいる。ここを終の住み処と決めた。山田さんも後学のために見にきなさい」と言われるのです。後学のために見に来なさいというおっしゃり方を、とてもおかしく思ったのですが、勿論喜んで京都在住の上杉さんとお伺いしました。キッチン、バス、トイレ付きの大きな部屋のテーブルの上には何冊もの本や原稿のようなものが置いてありました。先生はおっしゃいました。「ここを終の住み処と決めたのや。正月には家内を呼ぼうと思って大きな部屋にした。朝ご飯はここで食べて、昼と夜は前の高折病院の食堂に行く。買い物は職員さんが車で連れてくれる」と、とてもお元気なのです。先生、論文を書いておられるのですね、なんで論文を書かれるのですか、とお尋ねすると、これしかすることはないもの、とおっしゃいます。学者の先生にこのような質問をするとは、なんと馬鹿な弟子なのでしょう。でも先生は普通の調子で答えて下さいました。90歳ぐらいにおなりだったかと思いますが、ご高齢になってなお自立して生きようとしておられること、さらに研究し続けておられること、この両方をすごいと思ひ感動しました。先生が電話でおっしゃった通り、お伺いしたのは正に

私の後学のためだったのです。

実はその日は64年卒の上杉、須藤、寺阪、野沢、山本そして私の6人が織田先生と共に山ばなの平八茶屋で会食をすることになっていました。だから、あのお電話は、下鴨のお家でなくシルバーマンションに迎えにきてほしいという意味だったのです。勿論私には分かっていました。64年卒の私たちは地理の学会が関西で開かれる時にはよく先生とお会いしていました。そのような時には友達が亡くなってしまって寂しいと、先生はとてもよくお話になりました。先生は抜群の記憶力をお持ちで、また、話術にも長けておられましたので、話題は超豊富で面白く、50代の私たちを笑わせながら、色々な話を聞かせて下さいました。

不肖の弟子でありましたが、いつまでも自立して生きようとする、いつまでも研究し続けることを教えてくださった先生をなつかしく思い出します。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



(2) ドイツ女性史を研究したこと

フルタイムの高校教師の仕事はやりがいのあるものでしたが、体力的に無理に

なり、51歳の終わりに京都府立高校を退職しました。その後京大の西洋史の聴講生になり、1998年、56歳の時立命館大学国際関係研究科の院生になりました。そこにはドイツ女性史とジェンダー論がご専門の姫岡とし子先生がおられました。しかし姫岡先生は当時学部教授で、博士前期課程はドイツ社会学ご専門の井上純一先生のゼミに入れていただきました。このお二人の先生には8年余にわたり非常にお世話になりました。

私は研究対象として、ルイーゼ・オットー＝ペータース（1819～1890）を選びました。彼女はマイセンの裁判官の娘で、資産もあり、市民階級の女性という意味で市民女性或いはブルジョワ女性と呼ばれますが、ドイツの1848年革命の時にいち早く労働者層の女性の困窮の問題を世に明らかにし、その後引き続き女性の教育と労働の場の拡大を訴え続け、全ドイツの女性組織を作った人で、いわばドイツ女性運動の先駆者です。日本では、近代ドイツ女性史研究の中でのオットー研究があるだけでした。後に、もう一つ、彼女の48年革命時の活動をジェンダーの立場で論じた研究が公にされましたが。私は、彼女が同時代のマルクスも言及していなかった女性労働者の問題に関心を持ったことに魅力を感じ、そこを研究のポイントにしました。

しかし資料収集がなかなか大変でした。コンピューターに弱くはないけど思いながら、やはり弱くて、ほとんど全面的に立命の図書館の司書さんたちのお世

話になりました。私が読みたいと思う本を、非常な熱意と力で、日本は勿論ドイツ、アメリカ、そしてイギリスの図書館や大学で見つけ、本そのもの、コピー或いはマイクロフィルムの形で借り出して下さいました。私の研究は司書さんたちの力なしではできなかったと思っています。

研究科教授になられた姫岡先生のゼミで後期課程を終えさらに研究生を2年過ごした後、オットーの活動したライプツィヒへどうしても行きたいと思い、私は成田空港のルフトハンザのゲートのベンチに座っておりました。その時です。ご家族にご不幸がありました、という知らせが入りました。姑が亡くなったのです。私の大学院入学直前に両脚の大腿骨骨頭を折り車椅子生活となった姑は、自身の強い要望もあり7年余家で療養をしていました。内科医の夫、ヘルパーさん、看護婦さんたち、そして私の4,5人のスタッフによる自宅介護でした。丁寧な介護をしました。しかし私が不在ではそれも無理ということで、入院させてもらった直後のことでした。95歳でした。急いで帰宅し、お葬式やお世話になった方々へのお礼を済ませ、やはり私はライプツィヒへ行くことになったのです。

ライプツィヒ大学付属ヘルダー語学研究所インターダフという学校での語学研修は、早稲田大学の世話で成田からみんなで行くことになっていたのですが、10日も遅れて一人で行かなくてはならなくなり、緊張は相当なものでした。



しかし、無事に授業にも出られるようになり、放課後や時には授業を休んで、ライブツィッヒ大学の図書館やルイーゼ・オッター＝ペータース協会の古文書館に行き資料をもらい、協会主催の記念行事にも参加しました。ライブツィッヒにただの 2 週間しか滞在しなかったのに、色々なことができ行った甲斐がありました。

特筆すべきは、ヨハンナ・ルードウィッヒさんにお会いすることができたことです。彼女は上記の協会の会長で、検閲で書き直しをさせられた後に出版されていた小説『城と工場』というオッターの著作の検閲文書を発見し、小説の原型を復原して、150 年後の現在出版した研究者なのです。勧められて協会にも入りました。日本人では第 1 号です。帰国後私は立命の院生論集掲載の日本語の論文の抜き刷りを送りました。すると驚いたことに、ドイツ人男性の日本語学者がすぐにドイツ語に翻訳して下さったのです。今までオッターに関して、指摘されてはいたが誰も考察していなかったことを研究したのが良かったようです。しかし翻訳者が女性史とは関係のない方だったので、その後の校正にはとても時間がかかりました。協会は丁寧な指摘を沢山して頂きましたし、私の方も資料をしっかりと見直して正確を期しました。論文は 2007 年秋の協会『年報』に掲載していただきました。初めて出合い親切にしてください、その後沢山のメールをやり取りしたこの 3 年間の経過を振り返り感じるのは、この交流は外国人女性たちとの間の

友情なのか、これはルイーゼ・オッター＝ペータースを女性運動の先駆者として研究しようという女同士の友情と連帯、つまりシスターフッドなのかということだと思います。初めてののちよっと不思議な感じの経験です。

大学院入学後 8 年目に私は博士後期課程に再入学しました。この 1 年間に論文を提出すれば課程博士号取得の可能性があると、規則ができたのです。私が以前に送った論文を郷里の 90 歳近かった母はとても楽しんで 3 回も読んでくれたそうです。それなら母の生きている間に、今までの研究を踏まえて博士論文を書こうと大きなことを考えました。ところが、姫岡先生は筑波大学に移籍、井上先生はウィーン大学に留学で、京都には直接ご指導いただく先生がなくなってしまったのです。姫岡先生とは連休にお会いし或いは電話でご指導を頂き、また添付送信にお返事を頂きました。井上先生はもっぱら添付送信でしたが、すぐに赤ペン入りで返信して下さいました。きびしく、親切で、優れた先生方でした。勿論お二人とも私よりお若いのですが。母は 2006 年 6 月 12 日に他界しました。教授会で博士論文として認められたのは 7 月 7 日でした。原稿は棺にそっと入れておきました。

### (3) 今願っていること

人は自分の好きな仕事につき、自分の能力を開花させ、それによって生計をたてる、これが一番の幸せだと思います。それが今できていない人が多い。だから

私の願いは、特に若い人たちが、男女の差別なく、非正規でなく正規で就職し、いきいきと働き、贅沢でなくても豊かに暮らせるようになることです。ルーゼ・オットー＝ペータースが 100 年以上も前に提起した課題はまだ解決していません。解決のためには不断の努力が必要なのです。

→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 秋季地理学談話会の報告 ～地理学教室百周年記念大会～

2007 年 12 月 2 日、文学部新館第 1・2 講義室において、秋季の地理学談話会が教室百周年記念の大会として開催され、大勢の卒業生の方々にご参加いただくことができました。ご講演いただいた千田稔先生はじめ、OB 交流会で講師をくださった卒業生の方々、懇親会での座談会で話題提供くださった諸先生方に厚く御礼申し上げます。

大会は、以下のような 3 部構成で行われました。

### <第1部> OB交流会

卒業生の星田侑久氏（(株)パスコ、2005 年卒）と林原久俊氏（共同通信社、2006 年卒）のお二人に講師としておいいただき、在学当時の思い出や社会に出るまでの体験、社会に出てからの歩みを在学

生たちにお話しいただき、さまざまなアドバイスだけでなく暖かい励ましもいただきました。若い世代の活発な意見交換があり、楽しい交流の機会となりました。

講師の方々とは司会者（宮澤博久氏（M2）と煙山哲史氏（M1））との間で打ち合わせして、進行内容も企画していただきました。ありがとうございました。

### <第2部> 講演会

#### 日本古代の天皇をめぐる 歴史地理学的視点

千田 稔

（国際日本文化研究センター教授）  
（1966年卒）

日本の歴史地理学研究において、天皇と空間の関係に視点を置くことは、不可欠な課題の一つである。古代のみならず、近代に至るまで国家領域の形成に天皇が直接的、あるいは間接的に関与していたことは、いうまでもない。以下、古代における天皇にかかわる古代の歴史地理的な問題の一端にふれてみたい。

天皇号がいつ成立したかについては、未だ定説をみていない。しかし、天皇という言葉の由来については、中国の土着的な宗教である道教の最高神、天皇大帝によるとする福永光司の説は首肯してよいであろう。天皇号の成立を推古朝とする説、天智朝とする説、ふるいは天武朝とする説などがあるが、私は、舒明朝の

可能性を想定しつつある。その理由を、八角形墳の出現と対応する点に求めている。平面形を八角形とする墳墓は、古代において、舒明朝から文武朝に限定して造られた特異な形態である。

八角形は、東西南北とその中間の方位をもって形成される多角形であるが、八方位は道教の世界観を象徴するもので、中心に北極星が位置するとされる。その北極星こそ、天帝であり、天皇大帝と呼ばれた時代があった。そのため天皇大帝にその名が由来する天皇が八角形墳に葬られるにふさわしい。このことから考えると舒明朝に私的か公的かは判然としなくても、天皇号が使用された可能性はあると考える。

本来、八方位からなる世界は、「八紘」とよばれ、『日本書紀』神武紀に「六合（くにのうち）を兼ねて都を開き、八紘を掩ひて宇にせむこと、亦可（よ）からずや」とあり、『古事記』の序文には「八荒」という用語がある。「八荒」と、八方の僻遠の土地をいい、やはり、道教の世界観に関係する。

『万葉集』巻 1-1 つまり『万葉集』の冒頭に雄略に仮託した歌を、そして巻 1-2 に舒明の香具山における国見の歌を載せているが、編者が時代の画期として雄略朝と舒明朝を位置づけたことにほかならない。さらに八角形墳と対応するがごとく、宮号に飛鳥という地名が冠せられていることも注意すべきであろう。これらのことは、新しい王朝の始まりを示すものとみてよい。

天皇—八角形墳に加えて、大極殿の出現も関係づけることができる。なぜならば、「大極」とは北極星の意味であり、天皇大帝の象徴だからである。大極殿は、『漢語大詞典』には、「天宮」、「仙宮」の意味をあげている。機能的には、天皇が即位や朝賀など重要な政務に際して出御する場である。

大極殿がいつごろから造られるかについては、現状では考古学的な証拠からは断案がえられていない。『日本書紀』では、皇極紀 4 年（645）にその名をみるのだが、古訓では「おほあんの」とあるので、後の「大安殿」を指すとする説があり、皇極朝に大極殿が創建されたことを認めないとするのが通説としてある。しかし、天皇号が舒明朝に使われていたとすれば、皇極紀の大極殿の記事は軽々に斥けるべきでない。さらに、諡号である「皇極」は、「天皇」と「大極殿」の結びつきを暗示する。考古学的には、孝徳朝に完成した難波長柄豊碕宮の大極殿相当建物や、天武朝の「エビノコ殿」に大極殿の原形を読みとろうとされている。

上記のように、大極殿が天皇の即位など宮都における最重要な施設であるので、遷都にあたっては、大極殿の建築が最優先されねばならない。そのために、旧都から新都に遷るに際して大極殿が移築される場合がある。具体的には、藤原宮の大極殿が平城宮に移築され、それがさらに恭仁宮へと移築されたことや、難波宮の大極殿が長岡宮に移築されている事例をあげることができる。

藤原宮でなされた元明女帝の平城遷都詔において平城が四禽図に叶う地とあることからうかがえる。つまり、四禽とは四神のことを指しているが、四神は、本来天空の星宿を四分したものであるから、京は天になぞらえていたことになり、それがさらに宮都が置かれるべき地域であった畿内も天とみなされた。「天離る夷の長道ゆ恋ゆ来れば明石の門より大和島見ゆ」（巻 3-255）という万葉歌から、畿内（宮都）＝天と夷（地方）という極端な地域認識の格差があったことを知ることができる。このような地域認識は、日本では現在に至るまでもち続けられてきたものである。その点においても「ミヤコ」は特異な場であったといえる。

### <第3部> 懇親会と座談会

懇親会の途中、<教室の思い出を語る～織田先生を偲ぶ>と題する座談会を行いました。石原潤名誉教授（1962年卒）の司会で、末尾至行（1952年卒）、佐々木高明（1955年修）、成田孝三（1958年卒）の諸先生方にお話しいただきました。フロアーからもさまざまな思い出話が出、なごやかな会となりました。参加者には、小冊子『織田先生が最後に書かれた随筆ならびにミニ・アルバム』が配布されました。

この小冊子につきましては、まだ残部がございます。ご希望される方がいらっしゃいましたら、地理学教室までご連絡ください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 研究室便り

### <金田章裕教授の退職について>

1987年8月に着任されて以来、助教授、教授として地理学教室で研究・教育にあたってこられた金田章裕先生（1969年卒）が、2008年3月末をもって京都大学を辞されました。金田先生は、その在任中、歴史地理学のご研究を進められながら、多くの研究者を育てられました。また、文学研究科の大学院重点化や総合博物館の開設などに取り組まれた他、文学研究科長、さらに副学長の任にあたられ、大学運営にも力を尽くされました。ご定年まで2年を残しておられましたが、ご自身の引き方を熟慮されてのご決断と伺っております。金田先生の強いご意向で、退職に際しての特別な行事は執り行いませんでした。

金田先生は、4月から人間文化研究機構の機構長に就任され、新しい大きな任務を担っておられます。先生には、今後もお健やかにいっそうご活躍されますことを願ってやみません。なお、金田先生は、4月1日付けで京都大学名誉教授の称号を授与されました。

### <上杉和央助教の転出について>

2004年4月より京都大学総合博物館で地理学分野の助手（助教）を務めておられました上杉和央氏（1999年卒）が、4月1日付けで、京都府立大学文学部に

講師として転出されました。在任中は、地図資料の管理や閲覧、展示といった業務だけでなく、文学部科目「地理学実習」の一環として実施する実習旅行を担当していただくなど、学生・院生の指導にも多大なご協力をいただきました。今後のいっそうのご活躍をお祈りいたします。

### ＜総合博物館における

#### 地図資料等の利用について＞

上杉助教の転出に伴い、当面、総合博物館における地理部門の担当者が不在となります。

総合博物館に収蔵されている地図資料等の閲覧や利用を希望される方は、お手数ですが、下記まで、ご連絡くださいますよう、お願いいたします。

#### 京都大学総合博物館 事務室

電話：075-753-3272

### ＜博士の学位について＞

石原 潤 教授（現、名誉教授）が、「博士の学位について」と題して、博士の学位取得に関する説明を『談話会報』（第10号）（1999）に掲載しましてから、10年近くになります。博士号取得の意欲を持たれておられる方も少なからずおられると存じますし、このたびの金田 章裕 教授の転出によって、地理学教室としての学位審査に影響があるのではと心配される方がいらっしゃるかもしれません。

そこで、改めて、博士の学位に関することがら全般について、概略をご説明申

し上げることいたしました。

同封しております「学位論文の申請と審査について」（別紙）をご覧ください。課程博士と論文博士、二つの種類の学位について、内容や手続き等を説明しております。

学位の申請を希望されておられる方は、文学部の教務第二掛（電話：075-753-2710）から事務手続きの詳細に関する冊子や説明をお取り寄せいただきますとともに、地理学の専修主任まで、学位の申請希望をお知らせくださいますよう、お願いいたします。当該分野の教員の了承を得ていることは、学位申請の要件の一つです。主任（教室の窓口として）を介して、申請者と教室との間で相談や検討を重ねながら手続きを進めることで、全体のプロセスをより円滑に進められたらと存じます。

なお、今年度の地理の専修主任は、田中和子が務めております。ご不明の点などございましたら、どうぞお問い合わせください。また、もし、教務掛との連絡等が難しいようでしたら、これについてもご相談くださいますよう、お願いいたします。

博士号にふさわしい優れた論文であれば、積極的に学位を出したいという地理学教室の方針に変わりはありません。ご考慮いただければ、幸いです。

連絡先（田中）

電話：075-753-2832（研究室）

電子メール：p51742@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp

## ＜夏期大学院入試の実施について＞

2007年度より、文学研究科行動文化学系（心理学専修，言語学専修，社会学専修，地理学専修）では，夏期の大学院入試（修士課程の学生募集）を始めました。

今年度も，7月1～4日の間，願書を受け付け，8月4日・6日の両日，第1次試験と第2次試験が実施される予定です。募集要項等については，文学研究科のホームページをご覧ください。

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

## ＜外国人研究者～滞在された方～＞

2007年2月26日から2008年2月まで，ヤン・ボギョン（楊普景）先生（誠信女子大学教授，韓国）が文学研究科招聘外国人研究者として滞在され，韓国を含めたアジアの古地図・絵図の研究に従事されました。楊先生は，教室スタッフや学内の研究者と積極的に交流されただけでなく，日本国内各地にも精力的に出かけ，調査・研究を進められました。学生たちにもたいへん親しく接していただきました。

## ＜地理学教室への寄贈図書

### ～2007年度～＞

個々の寄贈者のお名前は掲載しておりませんが，昨年度，地理学教室にご寄贈いただいた図書の一覧です（雑誌・定期刊行物等は除く）。これらの図書は，文学研究科図書館または地理学共同研究室に

配置し，学生ならびに教室スタッフの研究・教育に活用させていただいております。厚く御礼申し上げます。

過去にいただいた図書も含めて，これらの寄贈図書は，皆様にもご利用いただけるようにしておりますので，どうぞご活用ください。

- ・愛知大学総合郷土研究所紀要 第52輯 2007
- ・いま，山形から 2007.10
- ・移民研究 第3号 2007.3 琉球大学移民研究センター
- ・宇大地理 第10号 H19.3（宇都宮大学教育学部地理学教室）
- ・エネルギー史研究 no.22,2007.3 九州大学
- ・えりあぐんま 第13号 2007 群馬地理学会
- ・エリア山口 第37号 2008.1 山口地理学会
- ・オーストラリア研究紀要 第33号（追手門学院大学オーストラリア研究所）
- ・岡山大学環境理工学部研究報告 第12巻 H19.3
- ・京漁連だより 第400号 - 第405号（京都府漁業協同組合連合会）
- ・人文学部紀要 第27号 神戸学院大学人文学部
- ・人文地理学研究 2007年 31 筑波大学
- ・法政地理 第39号 2007.3 - 第40号 2008.3
- ・石炭研究資料叢書 no.28 九州大学
- ・奈良大地理 第13号 2007年 奈良大学地理学会
- ・人間科学 第19-20号 琉球大学法文学部人間科学科紀要
- ・国士舘大学地理学報告 no.15 2007年3月（国士舘大学地理学会）
- ・しま no.209, 第52巻, 第4号, no.210, 第53巻, 第1号, no.212, 第53巻, 第3号（財団法人日本離島センター）
- ・総合資料館だより（京都府立総合資料館）
- ・測量 第70号
- ・地理学評論 4月 vol.80, no.4, 2007 - 3月 vol.81, no.3, 2008（日本地理学会）
- ・地理 5月号 vol.52,2007 - 4月号

- vol.53,2008
- ・地図情報 vol.26 no.4 - vol.27 no.4 (財)地図情報センター)
  - ・地学雑誌 2006 vol.115, no.6 - 2008 vol.117, no.1 東京地学協会
  - ・地理誌叢 第48巻 第1号 2006.12 - 第2号 2007.6 日本大学地理学会
  - ・地理学論叢 45 - 47 (ソウル大 学校社会科学 大学地理学科 論文集) 2005.2
  - ・地理研究 14号 2007 法政大学大学院
  - ・地質調査報告 vol.57, no.7/8 2006 - vol.58, no.7/8 2007 産業技術総合研究所地質調査 総合センター
  - ・地理学研究報告 第18号 2007.3. (千葉大学 大学院自然科学研究科地理環境学研究室)
  - ・地域と環境 No.7 2007.3 京都大学大学院 人間・環境学研究科「地域と環境」研究会
  - ・地理学研究 第35号 2007年3月 駒澤大学 大学院地理学研究会
  - ・地域研究年報 2007 29 筑波大学
  - ・地理学報告 第104号 2007年6月 (愛知教育大学 地理学会)
  - ・地域と社会 第10号 2007.9 (大阪商業大学 比較地域研究所)
  - ・地域研究 vol.48, no.1 2007/11 (立正地理学会)
  - ・地域学研究 第20号 駒澤大学 応用地理研究所
  - ・地理学論集 No.82 2007 (北海道地理学会)
  - ・地理学報告 第105号 2007年12月 (愛知教育大学 地理学会)
  - ・地域調査報告 9 2006 種子島 (九州大学 地理学研究室)
  - ・地理学論叢 48-49 (ソウル大 学校社会科学 大学地理学科 論文集) 2006
  - ・名古屋大学文学部研究論集 史学 53 2007
  - ・砺波散村地域研究所研究紀要 第24号 2007.3 砺波市立砺波散村地域研究所
  - ・山形大学紀要 (社会科学) 第38巻 第1号
  - ・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 no.18, 2007, 別冊第15号-2, 別冊第15号-1, 2007
  - ・研究論叢 2007 LXIX, LXX 創立60周年記念号 (京都外国語大学)
  - ・文化史学 第63号 文化史学会 (同志社大学・文化史学会)
  - ・日本海地域の自然と環境 第14号 (福井大学 地域環境研究センター研究紀要)
  - ・立命館地理学 19 2007
  - ・和歌山地理 第27号 2007 (和歌山地理学会)
  - ・東京大学人文地理学研究 第18号 2007年
  - ・東北文化研究所紀要 第39号 2007年12月 東北学院大学
  - ・国士舘大学地理学報告 no.16 2008年3月 (国士舘大学地理学会)
  - ・京都大学東南アジア研究所ニュース NEWSLETTER No.57
  - ・歴史人類 第36号 筑波大学
  - ・関西学院史学 第35号
  - ・人間文化 H&S 22 2007 神戸学院大学 人文学会
  - ・山形大学紀要 (社会科学) 第38巻 第2号
  - ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS vol.28 no.1-4 2007
  - ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS no.34-36 2007
  - ・ASIAN AND AFRICAN AREA STUDIES 2006 no.06-2, 2007 no.07-1
  - ・COSMICA AREA STUDIES 2007 XXXVII (京都外国語大学)
  - ・GEOGRAPHICAL REVIEW OF JAPAN ENGLISH EDITION, no.1-2, 2007
  - ・GEOGRAPHICAL REPORTS OF TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY No.42 2007
  - ・Southeast Asian Studies 東南アジア研究 vol.45, no.1-2.
  - ・Tsukuba geoenvironmental sciences / University of Tsukuba. Vol. 2 (2006)
  - ・地域調査ことはじめ-あるく・みる・かく-/梶田真・仁平尊 明・加藤政洋 遍/ナカニシヤ 出版
  - ・瀬戸市史 通史編上
  - ・17世紀以前の日本・中国・朝鮮関係 絵図 地図目録
  - ・大地の肖像 絵図・地図が語る世界/藤井譲治
  - ・杉山正明・金田章裕/京大学術出版会
  - ・平成15年度～17年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書 寺院「過去帳」分析システムの構築 研究代表者: 川口

- 洋 (帝塚山大学経営情報学部)
- ・なぜ巨大開発は破綻したか 苫小牧東部開発の検証/ 増田壽男・今松英悦・小田清[編]/日本経済評論社
  - ・東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究研究成果報告書 I, II, III
  - ・環境の歴史: ヨーロッパ, 原初から現代まで / ロベール・ドロール, フランソワ・ワルテール[著]; 桃木暁子, 門脇仁訳/みすず書房
  - ・平成 16 年度～ 18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書 中国大都市における住宅の市場化とその地域的展開 研究代表者 土居晴洋 (大分大学教育福祉科学部)
  - ・第 9 回環境理工学部国際シンポジウム H19.1 岡山大学
  - ・都市の景観地理 日本編 1・2/阿部和俊編/古今書院
  - ・新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊 X 三輪長泰『改正越後国佐渡国全図並付録』堀健彦編 2007 年 3 月
  - ・新潟大学 大域的文化システムの再構築に関する資料学的研究
  - ・2006 JAPANESE PROGRESS IN CLIMATOLOGY 法政大学気候学談話会
  - ・地図出版の四百年 京都・日本・世界 (京都大学総合博物館 2007 年春期企画展)/京都大学総合博物館京都大学大学院文学研究科地理学教室編/ナカニシヤ出版
  - ・会津地方の地域調査 2007 実習報告書 東北大学大学院理学研究科地理学教室
  - ・People on the Move: Rural-Urban Interactions in Sarawak/祖田亮次/京大学術出版会
  - ・近世日本の地図と測量村と「廻り検地」/鳴海邦匡/九州大学出版会
  - ・平安京一京都 都市図と都市構造/金田章裕 [編]/京大学術出版会
  - ・立正地理学会 40 周年記念誌-学位論文目次集 - 2005 年 11 月 立正地理学会
  - ・『戦後日本における米軍統治の実態と地方政治の形成に関する政治地理学的研究』(課題番号 17520545) 平成 17・18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書 平成 19 年 3 月 研究代表者 山崎孝史
  - ・お茶の水女子大学地理学コース 甌島巡検 2006.12
  - ・現代南アジアの地域システム 2
  - ・広島大学 現代南アジア地域システム・プロジェクト研究センター研究成果報告書 3 (2006 年度) 2007 年 3 月
  - ・中・近世における都市空間の景観復原に関する学際的アプローチ方法論的再検討を目指した畿内と防長両国の比較研究-平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究成果報告書 平成 19 年 3 月 研究代表者 藤田裕嗣 神戸大学文学部教授
  - ・シンポジウム「中世・近世の都市, 山口をさぐる-地図からみた防長の都市-」資料集
  - ・関西大学 地理学研究室実習報告書 (31) 2006 年度
  - ・瀬戸蔵ミュージアム展示図録
  - ・甘肅省と酒泉オアシスの変容 甘肅省と酒泉緑洲の変容 石原潤・石培基・秋山元秀・小島泰雄編 (奈良大学文学部地理学科)
  - ・京都大学東南アジア研究所 自己点検・評価報告書
  - ・人口減少と地域 地理学のアプローチ 石川義孝編 京大学術出版会
  - ・過疎対策の評価と今後の振興方策のあり方に関する調査報告書 平成 19 年 3 月 総務省自治行政局過疎対策室
  - ・貨物鉄道百三十年史 上巻・中巻・下巻・索引 (編集 日本貨物鉄道株式会社貨物鉄道百三十年史編さん委員会) (発行 日本貨物鉄道株式会社)
  - ・「大きなかぶ」はなぜ抜けた? 謎とき世界の民話/小長谷有紀編/講談社現代新書
  - ・『南山城地域における文化的景観の形成過程と保全に関する研究』平成 18 年度京都府立大学地域貢献型特別研究成果報告書 平成 19 年 3 月 研究代表者 櫛木謙周 (京都府立大学文学部教授)
  - ・Proceedings of HISTORICAL MAPS AND GIS in Nagoya University, Japan 23-24 August 2007
  - ・立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター (ORC) 整備事業 平成 18 年度事業報告書/立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリサーチセンター編
  - ・平成 18 年度・文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」採択プロジェクト 地



- 域文化を担う地歴科高校教員の養成我が国の人文科学分野の振興に資する国立大学と公立高校の連携プロジェクト—平成 18 年度の取り組み—平成 19 年 3 月 30 日神戸大学文学部
- ・近世砺波平野の開発と散村の展開/佐伯安一/桂書房
  - ・ YOUNG JAPANESE LANDSCAPE
  - ・ 講座 人間と環境 1-12 巻 (昭和堂)
  - ・ 岩波講座 地球環境学 1-10 巻 (岩波書店)
  - ・ 講座 文明と環境 1-15 巻 (朝倉書店)
  - ・ 関西大学東西学術研究所シホ・ジウム報告書シリーズ 1 アジア・世界をつなぐ海の回廊—文化の出会い— (関西大学東西学術研究所)
  - ・ 熊本大学地理学研究 第 3 号 熊本県人吉・球磨地域調査報告 (熊本大学文学部地理空間学研究室)
  - ・ 2005 年度地域調査報告書「白山」(金沢大学文学部地理学教室)
  - ・ 2006 年度地域調査報告書「富山」(金沢大学文学部地理学教室)
  - ・ 首都大学東京都市環境学部大学院理学研究科
  - ・ 東京都立大学理学部理学研究科 地理学教室 年報 2006 年度
  - ・ In Search of a New Paradigm: Sustainable Human sphere CENTER FOR SOUTHEAST ASIAN STUDIES KYOTO UNIV.
  - ・ JR 奈良線開通 111 年記念 パノラマ地図と鉄道旅行 (宇治市歴史資料館)
  - ・ 東京都市計画物語/ちくま学芸文庫/越澤明著 (ハンダ版?)
  - ・ 啓蒙思想家たちの地理学—18 世紀におけるフランスの地理学者と探検家—ヌマ・ブロック著・大嶽幸彦訳
  - ・ 大嶽幸彦先生退職記念事業会編 地域と地理教育/共同出版
  - ・ 地理環境科学調査法研究報告 茨城の地域研究 (首都大学東京都市環境学部地理学教室 都市・人文地理学研究室)
  - ・ 米子城資料第一集 米子城絵図面 (米子市立山陰歴史館)
  - ・ 新日本山岳誌 : 日本山岳会創立 100 周年記念出版 / 日本山岳会編著/ナカニシヤ出版
  - ・ 堀川遺跡発掘調査報告書 高島市文化財調査報告書第 10 集 2008 年 3 月
  - ・ お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context (差異を超えて—アジア・太平洋の文脈からのジェンダーと開発の再定位) / F-GENS Publication Series 32
  - ・ A TOUR IN SEARCH OF LANGAGES DE LA GEOGRAPHIE IN KYOTO August 1980/ Geography Institute, Kyoto Univ.
  - ・ GEOGRAPHICAL LANGUAGES IN DIFFERENT TIMES AND PLACES Japanese Contributions to the History of Geographical Thoughts KYOTO 1980/Geography Institute, Kyoto Univ.
  - ・ Aux origines du tourisme dans les pays de l'Adour, du mythe a l'espace : un essai de geographie historique / Michel Chadeffaud
  - ・ Fronts et frontieres : un tour du monde geopolitique / Michel Foucher
  - ・ La vie des palaces / Emile Litschgy
  - ・ Paris, histoire d'un port : du Port de Paris au Port autonome de Paris / Jean Millard
  - ・ Guide Julliard des stations de sports d'hiver / Francois Simon
  - ・ Climat et tourisme / Jean-Pierre Besancenot
  - ・ Pratique de la ville / Michel-Jean Bertrand
  - ・ L'etranger sous terre / Laurence Costes
  - ・ La production de l'espace / Henri Lefebvre. (4e ed)
  - ・ Architecture de l'habitat urbain : la maison, le quartier, la ville / Michel Jean Bertrand
  - ・ Guide Gindraux de Geneve / Philippe Gindraux
  - ・ Montpellier : annees soixantes / Brigitte Alzieu
  - ・ Montpellier mediterranee / Robert Ferras, Jean-Paul Volle
  - ・ La litterature dans tous ses espaces / sous la direction de Michel Chevalier
  - ・ Lire le paysage, lire les paysages : acte du colloque des 24 et 25 novembre 1983 / Centre interdisciplinaire d'etudes et de recherches sur l'expression contemporaine
  - ・ Temps du territoire / Jean-Luc Piveteau
  - ・ Retour a Montpellier / Aris Georgiou
  - ・ La France sensible / Pierre Sansot

- Jardins publics / Pierre Sansot
- L'Humanisme en géographie / Antoine Bailly, Renato Scariati
- Montpellier et ses gares / Paul Genelot
- Guide naïf de Paris : Paris through the eyes of the modern primitives / Marie-Christine Hugonot
- Mont Ventoux / Georges Brun
- Représenter l'espace: l'imaginaire spatial à l'école / Yves Andre, Antoine Bailly, Robert Ferras, Jean-Paul Guerin et Herve Gumuchian
- Robert Doisneau : la vie d'un photographe / Peter Hamilton
- The Politics of the picturesque: literature, landscape and aesthetics since 1770 / Stephen Copley and Peter Garside
- Un peu de Paris / Jean-Jacques Sempe
- Un peu de la France / Jean-Jacques Sempe
- Vacances / Jean-Jacques Sempe
- Œuvres complètes / Roland Barthes (全3巻)

### <研究室の動静>

教室の事務は、引き続き三上純子さんをお願い致しております。

本年度は、大学院博士後期課程2名、修士課程6名、学部4回生9名、3回生5名、研究生2名、聴講生1名となっております。

### <3回生の自己紹介>

本年度は5名の3回生と1名の新研究生を迎えました。皆さんに簡単に自己紹介していただきます。

(3回生)

朝倉慎人

朝倉直人と申します。地理をやりたくて京都にやってきました。とは言っても、具体的に何をやりたいのか、はっきりと

はわからないので、これからゆっくり探していきたいと思います。よろしくおねがいします。

日下直人

小さい頃から、暇があれば地図や世界各国の国旗を眺めていました。本当に飽きません。京大の地理学教室に入り、より本格的に学ぶことができるのでワクワクしています。また私は体育会のサッカー部に所属しており、学問と両立して頑張っていきたいと思います。皆さんよろしくおねがいします。

永見佳央里

新潟県長岡市出身の永見です。自転車競技部のマネージャー、介護などを行っています。スポーツも大好きです！今は、農業に興味を持っていて、春休みには和歌山、島根、東京へ行って来ました。今年から農学部で畑も作ることになりました！南瓜の収穫が楽しみです♪どうぞよろしくおねがいします。

本慶圭佑

本慶圭佑といます。広島から来ました。気がついたらいつのまにか地理学専修にいました。歴史地理学と教育関係に興味があります。サークルでは子どもに勉強を教えています。元々は体育会系です。よろしくおねがいします

宮本琢也

新三回の宮本と申します。あてどなくそ

こらをプラプラすることに至上の喜びを見出しているのですが、部活動やらバイトやらのせいで今までそれが叶わなかったので、これを機に身辺整理などして羽をのばしたいと思います。短い間ですがどうぞよろしく。

(研究生)

Jose Vergara

はじめまして、ベルガラ・ホセと申します。どうぞよろしくお願ひします。メキシコから来ました。まず編集者になったきっかけをお話しましょう。大学を出てから7年間(2000-2007)、出版社で仕事をしました。出版社に入ってから、出版社に送られてきた経済、政治、歴史、人類学の書物を読んだり、批評を書きました。そのほかに、本の校正をしました。仕事は大変でしたが、2006年に私は編集者になりました。出版社に勤めた素晴らしい経験を活かして、今、京都大学で取り組みたい研究テーマは、日本の出版産業と経済地理学です。

#### <2007年度の実習旅行>

2007年度は、10月23～26日まで、鳥取県米子市において、2回生・3回生の計5名が調査を行い、報告書を作成しました。2007年度より、各教員の調査報告も掲載することになりました。

#### <学部卒業生・院生の進路>

\*学部卒業生

香川 絵里 ESRI ジャパン株式会社

堅田 啓介 (独) 都市再生機構  
木村 善則 (株) タービン・インタラクティブ

熊田 安美 住友鋼管株式会社

齊藤 圭 アリコジャパン

中山 理沙 鹿島建設株式会社

西田 幸世 三菱重工業神戸造船所

平川 生在 三井住友ビザカード(株)  
大阪本社

廣本 幸子 文学研究科(修士課程)

松本 貴裕 文学研究科(修士課程)

\*大学院修士課程

岡本憲幸 聴講生

宮澤博久

#### <院生の研究状況の報告>

今年度までの院生の研究状況をお知らせします。以下は、閲読を経た論文のリストです。

研究生 福本 拓

・大阪府における在日外国人「ニューカマー」の生活空間, 地理科学 57-4, 255-276 頁(2002)

・1920年代から1950年代初頭の大阪市における在日朝鮮人集住地の変遷, 人文地理, 56-2, 42-57 頁(2004)

D3 沖 慶子

・牧口常三郎著『人生地理学』の同時代評, 地理科学 58-2, 65-91 頁(2003)

D2 柴田 陽一

- ・小牧実繁の著作目録と著述活動の傾向, 歴史地理学, 47-2, 42-63 頁 (2005)
- ・小牧実繁の「日本地政学」とその思想的確立—個人史的側面に注目して—, 人文地理, 58-1, 1-19 頁 (2006)
- ・アジア・太平洋戦争期の戦略研究における地理学者の役割—総合地理研究会と陸軍参謀本部—, 歴史地理学, 49-5, 1-31 頁 (2007)

M2 南都 奈緒子

- ・ローカル・ヒストリーと共同体—山梨県内市町村史における恩賜林記述をめぐって—, 史林, 90-6, 893-926 頁 (2007)

<2008年度講義題目>

\*講義 (系共通科目) \*  
米家泰作・田中和子 地理学

\*特殊講義\*

- 教授 石川義孝 エスニック集団の人口地理学
- 教授 田中和子 決定論と確率論をめぐる地理学の諸問題
- 准教授 米家泰作 地理的知の歴史地理学
- 人環教授 山田 誠 地域形成の諸問題
- 人環教授 金坂清則 地理学における人物研究の諸問題とその意義
- 人環准教授 小方 登 衛星画像分析の原理, およびそのおよびその応用としての歴史景観復原
- 理学部准教授 堤 浩之 地形学
- 経研准教授 森 知也 空間経済学
- 講師 高橋 春成 人と生き物の地理
- 講師 藤田裕嗣 日本中世における流通地域構造

- 講師 伊東 理 イギリスの都市政策と都市の動向に関する地理学的研究
- 講師 荒井良雄 情報化社会とサイバースペースの地理学
- 講師 田林 明 現代の農業・農村を地理学的視点から考える
- 講師 林 和生 中国近世の歴史地理学の諸問題

\*演習 I—地理学研究法—\*

石川義孝・田中和子・米家泰作

\*演習 II—4 回生演習—\*

石川義孝・田中和子・米家泰作

\*講読\*

- 教授 石川義孝 英語地理書講読
- 教授 田中和子 ドイツ地理書講読
- 人文研助教 田中祐理子 フランス地理書講読
- 人文研助教 小野寺 史郎 中国地理書講読

\*地理学実習\*

田中和子・米家泰作

\*大学院演習—地域の諸問題—\*

石川義孝・田中和子・米家泰作

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 事務局から

### <地理学談話会2007年度会計報告>

(2007年4月1日～2008年3月31日)

#### 【資金会計】

〈収入〉

年会費 248,680

利子 120

前年度繰越金 128,155

計 376,955

〈支出〉

運営への振替 133,356

次年度への繰越 243,599

計 376,955

#### 【運営会計】

〈収入〉

資金会計からの振替 133,356

秋季懇親会会費 214,000

春季予餞会会費 107,300

計 454,656

〈支出〉

秋季懇親会・OB交流会経費 249,730

春季論文発表会・予餞会経費 107,300

会報等印刷費 5,000

通信・文具等費 91,726

弔電等 900

計 454,656

### <計報>

前回の会報以降、次の方々がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(確認分、括弧内は卒業年、敬称略)

久武 哲也 (1970年卒)

舟場 正富 (1960年卒)

藤村 重美 (1954年卒)

高村 正雄 (1947年卒)

### <住所不明者についてお願い>

以下の会員の住所が不明です。ご存じの方は、談話会事務局までご一報ください。(数字は卒業年、敬称略)

池内 麟太郎 (1973年卒)

安福 伸光 (1997年卒)

石角 強 (1970年卒)

石原 大嗣 (1997年卒)

石村 裕輔 (1992年卒)

今井 平八 (1944年卒)

岩部 敏夫 (1991年卒)

遠藤 元 (1997年卒)

遠藤 正雄 (1978年卒)

大山 晃司 (1995年卒)

岡本 靖一 (1967年卒)

岡本 美津子 (1987年卒)

興津 俊之 (1991年卒)

小口 稔 (1991年卒)

楓 雅之(泰昌) (1945年卒)

勝村 (赤座) 眞知子 (1973年卒)

川合 大地 (1998年卒)

川添 和明 (1995年卒)

貴志 謙介 (1981年卒)

木地 節郎 (1949年卒)

北口 卓美 (1990年卒)

合屋 有希 (1994年卒)

児玉 高太朗 (1990年卒)

坂部 誠治 (1991年卒)

嶋野 浩一朗 (1997年卒)

清水	究吾	(1998年卒)
新谷	泰久	(1990年卒)
神力	弘幸	(1993年卒)
鈴木	伸国	(1988年卒)
田島	渡	(1948年卒)
塚本	誠	(1990年卒)
都子	彦	(1940年卒)
中山	耕至	(1993年卒)
那須	久代	(1988年卒)
南部	一寿	(1999年卒)
西尾	正隆	(1970年卒)
西沢	仁晴	(1974年卒)
西山	隆彦	(1995年卒)
能勢(朝倉)	正寛	(1962年卒)
林	克子	(1989年卒)
平井	素子	(1996年卒)
福田	新一	(1971年卒)
松本	弘史	(1983年卒)
御手洗	央治	(1993年卒)
山口	一郎	(1980年卒)
山下	良	(1989年卒)
山田(児玉)	憲子	(1970年卒)
山中	一高	(1991年卒)
吉野	修司	(1995年卒)
六嶋	美也子	(1993年卒)
渡邊	克己	(2004年卒)
李	禧淑	(2001年博(修))

## <オープンキャンパス：2007年度の報告と2008年度のお知らせ>

2006年8月に京都大学のオープンキャンパスが開催されました。文学部の見学・説明会もこの一環として、9日に行われました。文学部の全体説明のあと、各系に分かれて専修ごとの説明を行ったうえで、見学者を募りました。研究室訪問では、授業や実習、学部生・院生の活動の様子についてスライドを見ながら説明

を聞いていただきました。教員、院生や学部学生たちへの質問コーナーでは、高校生たちから活発な声が聞かれました。同日、全学の企画と並行して、地理学教室主催のオープンキャンパスも開催しました。こちらにも高等学校の生徒さんたちが参加されました。地理学実習室や博物館地図作業室を見学したり、卒業研究や進路の状況について説明を行いました。

2008年度の京都大学主催の全学オープンキャンパスについては、

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

をご覧ください。文学部の見学・説明会は、8月7(木)の予定です。

地理学教室では、学部だけでなく大学院の受験志望者や、中学高校の教員の方々、また、一般の市民の方にも来て頂けるような企画を検討しております。今年度は、11月15日(土)に開催を予定しています。詳細な日程や参加申込の案内は、地理学教室のホームページ、

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geo/>

に、掲載する予定ですので、そちらをご覧ください。

## <2008年度地理学談話

### OB交流会・講演会・懇親会

#### のお知らせ>

本年は、下記のようなプログラムを予定しております。

記

日 時：11月15日（土）

午後2時—5時

場 所：文学部新館1階

第1・2講義室

◎OB交流会：午後2時より

講師（交渉中）

◎講演会：午後3時半より

小森 星児 氏（1959年卒）

◎懇親会：同日午後5時より

（文学部新館 第1講義室）

☆一年あたり千円を目処として、それぞれの会員の方々に、談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。随時、ご支援をお願いいたします。納入の際は、同封しております「郵便振替用紙」をご利用下さい。

## <『地理学教室百年史』刊行の

### ご案内>

出版が遅れておりましたこととお詫び申し上げます。同封しております案内（ナカニシヤ）をご覧ください。ようやく刊行の見通しとなりました。

談話会会員向けと市販向けの2種類の版での刊行予定です。

会員向け版『京都大学文学部地理学教室百年史』の購入を希望される方は、同封の振込用紙に希望部数等をご記入の上、代金（送料込み）をお振り込みください。談話会会員向けの特別価格（送料込み、4,400円）は、7月末までの期間限定ですので、お早めにお申し込みくださいますよう、お願い申し上げます。

なお、市販用の版『地理学 京都の百年』は、最寄りの書店を通じてお買い上げくださいますよう、お願いいたします。

京都大学文学部地理学談話会 会報 第19号

発行日 2008年5月15日

発行者 地理学談話会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部 地理学教室内

Tel: 075-753-2793 (直通)

発行所 京都大学文学部地理学教室

URL <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geo/>